





越 敷 岳 山 頂 に て (国際山岳年記念登山) (12月8日)

へ走る。ここが、越敷岳、緩木山の登山口である。天候は回復の兆の方向十キロほど走った後、大規模林道宇目小国線を二キロほど奥的田五ヶ瀬線に入るとT字交差点を右折、県道竹田五ヶ瀬線を南西自家用車一台で走る。県道神原玉来線を二キロほど南に走り、県道こで所用のため自家用車で参加される八重会員と合流。バスー台とれぞ正しく貸し切りバス)である。途中玉来駅で、トイレ休憩。これぞ正しく貸し切りバス)である。途中玉来駅で、トイレ休憩。こ な登山をしてきてください」と挨拶。この後、宇津宮副支部長のバスに乗車した。宇津宮副支部長が「今回の体験登山の主旨と安加者を確認すると丁度二十名、これで全員集合のようである。全 通手段として、 送りを受けバスは出発した。今回の対象者が青少年であるため、交な登山をしてきてください」と挨拶。この後、宇津宮副支部長の見がスに乗車した。宇津宮副支部長が「今回の体験登山の主旨と安全がある。いったい何名集合してくれるか心配である。七時五分、参天気予報は曇り一時雨である。事前の参加者予定者も二十数名程度 からその関わりがこころみられているところである。その一環とし し全くなし。 こととなった。 加藤会員のかけ声で全員輪になって自己紹介をはじめる。 登りを体験し、 りを体験し、山に親しんで貰うための『体験登山』を実施する(社) 日本山岳会東九州支部もこの機に、青少年を対象として 自然、人を改めて問い直す記念の年として、さまざまの角度○○二年は国連が国際山岳年として認定しており、山岳地域の 月八日 (日曜日) 曇りのままだ! バス利用となったが、 山に親しんで貰うための『 大分駅、 雨さえ降らなければと願う。 が、大型バス二十名の参加者の対象者が青少年であるため、 朝七時集合、 体験登山』を実施す 今日

少年体験登山大

山系の越敷岳と緩木山

もくじ 国際山岳年記念登山 仏来山、国見山、所小野山 2 3 上塚山から岳減鬼山 霧の馬子岳 4 障子岳、釈迦岳、大日岳 5 万円です」テン場代事情 6 7 山行報告(阿蘇鷲ガ峰) 私の無名山ガイドブック® 7 平成14年登山記録 8 1 4年次晚餐会報告 9 九州 5 支部集会報告 9 お知らせ 10

BOJ

寿

め直し出発。はじめは林道歩きーの紹介が終わり、靴ひもを締 年この時期だと水量が少ないの と明神ノ滝が正面に現れる。例 誰一人通れない人はいなかった してみることにする。今日のメ 全員リュツクを降ろし、早速試 行くと『善悪を試すはさみ岩』 永寿法印 御修行の地)とある。 ようだ。祠のある展望台迄いく に三〇分ほど登ると、御聖 洞 バーは皆善良なようである。 し登ると分岐点である。右に 《看板には、緩木山高源寺開祖 あまり落ちていない。 なくなり山道に入る。さら 檜林を一○分ほど進む林道

込んだ。参加者の年齢は、最年 参加者全員の氏名と年齢を書き 望は、全くきかない状態である。 〇六 一 m) ○分ほどで、 う途中大岩の前で全員を待って クを背負い直し、越敷岳へ向か である。雨模様でガスがあり展 齢は四四・八歳であった。 一〇歳~最年長六八歳で平均 休止する。 分岐点まで引き返し、リュツ 表題の「青少年」とは内容が 全員で記念写真と地図の裏に に着く。全員の登頂 越敷岳山頂(一, 大岩を左巻きし

> と緩木山である。 行くと祖母山、左の方向に進む かう道との分岐点で、まっすぐ 緩木山に向かい歩きはじめる。 参した食べ物を食べ一服した後、 る小広場で昼食をとる。各自持 に歩くと、そこは、祖母山に向 二〇分ほど稜線を南東の方向 一三六mの四等三角点の有 母山の分岐点手前の、標高



開始した。 頂上では、全員到着するのを待 目の山、 って記念写真を撮って、下山を 点、一○四六・○ m) である。 約一時間のアルバイトで二山 緩木山山頂(三等三角 (緩木山山頂にて)

えるよう企画したが、当日の天 際山岳年の趣旨」を理解して貰 でも多くの若者に参加して「国 最後に、今回の登山は、 少し

から緩木山へは、熊本県と大分

山、緩木山へ向かう。越敷岳

間ほど進むが視界は全く無い。

の県境歩きである。稜線を一

無事に山行ができること喜び 全く違うものになっていただが、

「万歳三唱」して頂上を後し次

かの経験になるはず、ご協力頂 いた方々本当にお疲れさまでし った。自らの体験は、将来何ら 候不順の為か、青少年はわずか に小学生一名、中学生二名であ

四年一二月八日

全行程=六時間一五分 五→大規模林道着一五:一五 四:二五→緩木山登山口一四:五 岐一二:五○→緩木山山頂着一三 頂着一○:五五発一一:一○→ 直下大岩前一○:四○→越敷岳山 着一○:○○発一○:二○→山頂 越敷岳登山口九:一○→はさみ岩 :二五発一四:○五→元宮分岐一 大規模林道発九:○○→林道から 二〇〇m四等三角点着一一:四五 [コースタイム] (昼食) 発一二:三○→祖母山分

(参加者)

斉藤晋一、小畑 隆、 佐藤秀二、牧野信江、 木下正彦、 渡部昭三、 廣瀬俊治、 阿南岳大、 甲斐隆、 佐藤正八、飯田勝之、 飯田ひとみ、衛藤 杉山麻美、 木本礼子、 阿南寿範、 安藤せつ、 八重康夫

リオデジャネイロ地球サミット に始まった長い道のりの重要な 国際山岳年は、一九九二年の

めの青写真として、行動計画 へ向けての持続可能な開発のた リオサミットでは二十一世紀

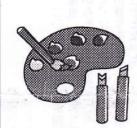
も読めない。前週に引き続き二

ければ「ぶくのやま」とはとて が打ってあった。ふりがながな

「仏来」に「ぶく」とふりがな

に重要な課題と位置付けた。 資源の劣化、砂漠化などと同様 岳問題を、気候変動、熱帯森林 持続可能な開発」をかかげ、山 態系の管理に関して山岳地域の その第一三章では、「脆弱な生 (アジェンダ21)を採択した。

を担うものである。 二年以降の持続的で確固たる行 動のための踏み台としての役割 イベントというよりは、二〇〇 現を促進するもので、一時的な 国際山岳年は、第一三章の実



至

(十月月例登山報告)

佐

秀

下りてきたのかと思わせる山名 今月の山は、仏がこの山 国土地理院の地図を見ると

から

行かず、途中に車が止められる 利道となる。行き止まりまでは 路を右折。道は林道となり、砂 ない方へ右折。さらに次の三叉 標識が出ているが、峠への道で 初の三叉路には、岳滅鬼峠への まもなく右に橋を渡る。この道 り入って「おでら庵」を過ぎて ロ、県道一〇七号線を皿山方面 百十二号線を中津方面へ約五キ とこの中学生と総勢七名となる。 合流。那須君が連れてきた、い の那須くんは、日田インターで 飯田さんと私の同僚で福岡 週連続の月例登山となる。 ここから林道を登り始める。 広場があり、そこに車を止めた。 は岳滅鬼峠への道でもある。最 ん安部さん長野さん四名で出発 五時にサニーに集合、 へ左折する。道は狭くなりかな 日田インターを出て、 私と西さ 国道二 在住

るので、それなりの車でなけれ り、ここまで車でも来れないこ がる。ここから谷沿いに上がっ ば来れないだろう。登山道は、 メキ峠を目指す。 植林で踏み後はわかりづらい。 林道突き当たりの奥の土手を上 とはないが、道がやや荒れて 所々にあるテープを頼りにガラ 林道の突き当たりにも広場はあ 分、林道の突き当たりにある。 (六時五五分出発) 登山道はここから歩いて約 道は緩やかな登りだが、

のか!と慌てて行くと、そこに 甲高い声が。 から感嘆とも悲鳴とも聞こえる 進む。私は、そこに石標がある ろに出る。先頭はそのまま左へ 口から約五十分、峠らしきとこ 峠のようだ。峠には石標がある あったのはなんと!立派な舗 すると、左に曲がった先頭の方 のではと探すが見あたらない。 キワクワクしながら登る。登山 らしく、石標が見つからないか もと言うことでちょっとドキド 岳滅鬼峠とともに由緒 石標が見つかった ある古

感謝した。 のであろう。道路工事の方、石 きな掘り割りと化し、道路の脇 標を残してく れを頼りに山の中を歩いていた き先が矢印で示され昔の人はこ た。石標の上面には峠からの行 には石標がぽつりと残されてい 峠は立派な林道が横切る、大 れてありがとうと

月月例山行でわかったのだが、 る工事中の道であった。 釜ケ瀬から上塚山方面へと この舗装道路は、 は載っていない。 新しく地図 後日、十 通じ

四十分)ここでいつものバンザ 包まれた山頂(三等、 しながら約三十分、最後五十 舗装道路に別れを告げ、目指 m)に到着した。 ほどの標高差を登ると植林に 軽く食事をとって下山 先ほどの峠を反対方 尾根道を緩やかに上 (午前八時 七九〇

同じ道を戻った。

う。(一一時四五分出発) こに車を止め、国見山へと向か 書かれた造林標識があった。こ 間の道を抜け視界が広がると、 左に県道七二〇号へと巻く。採 左に林道の入口がある。黒塚と 石場を抜け谷を詰めていく。谷 七号線を国道の手前まで戻り、 次は仏来ノ山の南東にある一山 車で県道一〇 へと移 動する。

二十分ほどで山頂の表示があり、 三角点(四等、八六六·七m) もあった。(十二時五十分到 った。後戻りして林道から植林 が分かりづらく通り過ぎてしま ークだと思っていたが、登り口 行き過ぎたようだ。王つ目のピ 入ると、後は下るだけ?おっと らしい。林道を歩きピークを三 つ巻いて、林道終点から山道へ 中へ入りピークを目指す。約 国見山へは林道が続いている

登り口の木に赤いテープが巻い りる。すぐに林道へ合流した。 かなかったことが判明した。 ていたが、林道からは高い位置 に悩まされながらやや急坂を降 ごしらえ。雨が降り始めたため で、草に隠れていたため気がつ 登山道らしきものはある。トゲ へ降りた。道は荒れているが、 すため登ってきた方向と逆方向 下山。私と西さんは登山口を探 ここで再びバンザイをし、腹

ら行く。 が置 覆われて狭く車でかき分けな む。道はさらに悪くなり、草 乗って駐車場からさらに奥へ進 ったが、気持ちを入れ直し車に 様も悪化しちょっと遠慮したか くの三角点へ登ると言う。空模 終わりかと思ったら、さらに近 いてあるところへ。これ (国見山山頂にて)

0 となり、雨具を着て、南東に延 あり、車を止めた。雨は本降り びる尾根へ向かう。 五分ほどで車のおける場所が (一四時()

もうすぐ到着だろうと思ったら、 ったが、以外に踏み跡がある。 道を少し歩いて尾根道に入る。 ってすぐに最初のピークを通過 人が来るような山じゃないと思 根づたいに登り植林の中に入 山頂はすぐそばに見える。林

そのまま林道を後戻りし、

恒例のバンザイはこの状況では 等、八四六、八m) もあり一安 今通り過ぎたピークらしいと戻 り込んでの記念撮影となった。 スを広げ記念撮影。木の下に潜 がある。枝を数本折ってスペー 人がかがめば数人入るスペース になっており、三角点の上側に 名の由来は、麓にある地名。 心。(午後二時三十分到着)山 呼ぶ。標識の横には三角点(三 ると「所小野山」と書いてある 先頭の方がなにやら騒がし は枝で支えられ幹が浮いた状態 木の下に小さな標識が。よく見 薄く広がった霧の先に山がない 「あったー」と叫んでみんなを 木

のが大変な山行だった。 れそうになる気持ちを維持する 装道路の出現、移動や雨で途切 引き上げる。 登山は終了した。予定外の舗 車まで約十分。これでこの日

雨の影響もあり、早々に

(一四年一〇月六日)

参加 那須、 者 安部、 西 田、 佐藤、 長



大きな杉の倒

(十一月月例山行報告 安 藤 せ

二一集合。 + 一月九 日十 曜 日 前 五時

せる。 真白、林道も積雪。 なかったが中山の集落の屋根は はなく明るくなった日田インタ 度規制、先が安じられたが、 地蔵インターまで五十キロの速 白くなっている。天ヶ瀬・高塚 奥別府よりまだ明けやらぬ空か ていないのを幸に限界まで走 ら雪が舞ってきた。法面はまだ 大分インターより高速に乗る。 を降りる。バス路線に積雪は 佐藤 路面が凍 雪 3

な気をつけちなあー」「 が遠くなるごとあるなあ」「 す」「何かあるんかえ?」「 に行くんかえ?」「上塚山 を追い越す。「こん雪ん中どこ 道路工事現場へ歩いていく一団 戻ったり、迷ったり戻ったりし に入る道が分からなかったりと 路が工事中であったり雪道で脇 て上塚山登山口へと向かう。 て登山口へ。途中、 田車を置き、 ねえけど登るだけです」 岳滅鬼山登山口下の林道脇に 佐藤車に乗り替 雪の林道を 0

後すぐに岳滅鬼山へ向けて縦走 いないので、四人で万歳の儀式 散り美しいこと。十時眺望のな 体が温まる頃、雪に黄葉紅葉が 八m)、乾杯をする程も歩いて 、上塚山山頂(三等、九三六・ 九時三十分、 雪の杉林へ入る



(上塚山山頂にて)

快である。積雪の上に紅葉が散 新雪に靴跡をつけて行くのは爽 れより先の縦走路は踏跡なし。 に戻ったりして尾根を進む。こ 根を間違え、一旦上塚山頂近く あまり調子良く下りすぎて尾 "美しい"の連発。

今日は断念ながら見えない。こ 面に見えて眺めの良いの所だが、 クに到着。ここは英彦山が真正 一〇時四五分、九五〇mピー

> 援に行くと言って引き返した。 いものね」 しか居ないからじゃないね」 なる。「今日は静かね」「三人 対川崎フロンターレの試合の応 こから佐藤さんは、トリニータ 「そう、今日は○○さんが居な これ以降は三人だけの縦走と

で楽しむには惜しい山道だった。 岩を降りたり登ったりと、三人 り、凍てついたロープを頼りに 切れ落ちた崖をトラバースした らずスズ竹との格闘が続いた。 行こうぜ!!」しかし、相変わ そうだ。「さあルンルン気分で 先は歩きやすくてルンルン道だ ばかりで静かである。これから 陽が眩しい県境稜線に出会った。 とか唄う人がいた。大小のアッ プダウンを繰返し十二時二十分、 道に被る重いスズ竹を追しのけ かき分けての格闘となる。後で となる。トップを歩く飯田さん、 「もう帰る」とか「帰りたい」 ここで昼食とする、無口な人 一時三十分岳減鬼峠、国境石 少し行くとスズ竹のヤセ尾根

指呼の間にある。 眺望を楽しむ、 手前の開けた岩から遠く近くの がない。滑るので要注意、山頂 ロープの下った岩場がある記憶 いるのに天気が良かったからか かる。平成八年十月に皆と来て 葉と雪を踏みしめての登りにか なっていた。初めて人(男性) には苔が一面につき読みずらく に会う。岳滅鬼山に向けて、落 英彦山の霧氷が また三人で見

> み渡る。 ビールで乾杯!!五臓六腑に滲 るのは惜しいなあ。岳滅鬼山頂 (一〇四〇m) 到着、二時五分

場の方だった。 支部の佐藤副支部長)と同じ職 日田の方で飯田さんの知人 (JAC ひょっこり若い男性が現れた。 本峰 (三角点) よりの道から

飯田さんにお任せして一路大分 車が待っていた。これより先は 景色であったのに枯野の中に愛 だ事に感謝する。朝は一面の雪 何よりこの林道を歩かずにすん 界で味わえぬ快感にルンルン。 くれる。女二人荷台に乗り、下 を置いているところまで送って 待っていてくれ、マイカーで車 頂上で会った佐藤さんの知人が 難い。林道に三時二三分出た。 を望む。寒い日の日差しは有り 法華岩を抜けやっと明るい太陽 三時三分もう薄暗い、コシアブ な葉、数多い落葉を踏みしめて、 ラ、クロモジが多い、朴の大き て滑りやすい道を下山する。峠 石楠花の頃来たいと心を残し

りがとうございました。 た飯田さんご苦労様でした、あ ブコギを孤軍奮闘してくださっ 五時三十分県庁前で下車、ヤ

(一四年一一月九日)

安藤(せ)、 飯田、 佐

月月例山行報告)

飯 田 勝 之

った。 の結果当日早朝に出ることにな のも億劫だということで、相談 雨の予報で、雨の中を深夜に内 っていたが、前日は熊本の方も 大臣峡に着いて、テントを張る 事前の予定では前夜出発にな

れてきた。 どに天気は回復の兆しが感じら 路面は乾いてきて、南下するほ 走る。しかし、南阿蘇に下ると なり、今日の前途に嫌な予感が 進するにつれてて次第に霧雨と 月の月例山行も四名であった。 ったのは計四名。そう言えば先 一台の車に同乗し出発である。 雨上がりの国道四四二号を西 早暁の午前三時にサニーに揃

り口を確認する。 つ、やっと西内谷橋たもとの登 ら砂利道を行ったり来たりしつ ガイドブックのコピーを見なが 登山口がなかなか見あたらない。 跡に着いたが、真っ暗な中で、 午前六時過ぎに内大臣事業所

のテーマ、「人影の無い山」に 百山に入れられているとはいえ、 ふさわしい入り口である。 いかにもマイナーな山で、今年 目印ひとつない登山口は熊本

ようやく明るくなってきた午前 頭上まで霧の立ちこめた中、

> を出発する。 七時一〇分、 谷に沿って遡る道

りつく道に変わる。 ら「帰りに採ろうね。」と言い いの道から、スギ林の山腹に取 つつ先に進む。少しいくと川沿 にナメコの群生を発見する。 くと、道ばたの古い大きな倒木 沿いに崩壊の著しい古い道を行 「ワーツ。」と歓声を上げなが 砂防ダムの脇をよじ登

間伐された見通しの良いスギ林 用し、目印もつけているようで ザグに続いており、点々と目印 しゃべりも弾みがちである。 の中は歩きやすく、Nさんの ツマタが目立つ緩斜面や、良く ある。あちこちにたくさんのミ であろうが、それを登山者が利 山仕事をする人達がつけたもの るようについている踏み後は、 のテープもある。山腹を迂回す れと分かる程度の踏み後がジグ スギ林の斜面に、わずかにそ

小屋が見えてきた。 の中に古い小さなトタン葺きの 約一時間で、霧に霞んだスギ林 谷に清流を発見。皆で喉を潤し 程なく水音がしてスギ林内の小 ずよ。」と言うNさん。すると ある造林小屋を探すことである。 てしすこしいくと、登り口から 「小屋は必ず水が近くにあるは 最初の目安はガイドブックに

と、ガイドブックにある通り、 緩い斜面を直登するように登る 巨大な岸壁の裾に着いた。 小屋の前を通過し、 道のない

「あっ、ゴメン。」「ダメじゃい。絶えず小石が転がり、本味は急なザレ場で、足下が危林床は急なザレ場で、足下が危がない。絶えず小石が転がり、回り込むとザレの登りとなった。回り込むとがレースと、岸壁の東の端を巻いて

長の主にはない。」「ダメじゃにあっ、ゴメン。」「ダメじゃにあっ、ゴメン。」「ダメじゃ

見ると岩の下にTさんがいる。 ろから見ていたNさん、Iさん のところをかすめて落下してい その頭上と肩先十センチ足らず 下していった。「あっ」と下を 突然足下の大きな岩が動いて落 ディングしながら登っていると、 も大怪我だ。危ないところであ ただごとではない。肩であって いる。当たっていれば、頭なら め、皆の騒ぎにきょとんとして 当のTさんは下を向いていたた を上げて息を飲んでいる。だが も「あーっ。」と悲鳴に近い声 ったのである。少し離れたとこ 岩の上を私がルートファイン

の方は見えない。木々にサルオ 場が終わると今度は急な崖の斜 面である。しかし、木の枝や根 で、 でこういう登りは面白いね。」 とNさんが言うように変化があ って結構楽しい。崖の斜面が終 わるとやせ尾根の登りとなった。 わるとやせ尾根の登りとなった。 となっているが、霧のために下 となっているが、霧のために下

峰が霧に被われやすい地形にあるためであろうか。遠く、近くるためである。谷の向こうはミて、さながら一幅の山水画を見て、さながら一幅の山水画を見て知想的なんでしょう・・。」と丁さんは立ち止まって見とれとTさんは立ち止まって見とれている。

さらに高度が上がると、霧がさらに高度が上がると、時折り度い方に向いてるね。」そんな良い方に向いてるね。」そんな良い方に向いてるね。」そんな良い方に向いてるね。」そんなっとを言いながら登っていると、雲間から薄日が降り注ぐように高度が上がると、霧がなった。

返すようになった。「おかしい 標識があったね。」と言うと、 言った。Nさんが「さっき何か ても良いと思うんだが。」私は なあ、もうそろそろ頂上に着い て緩やかなアップダウンを繰り 地図を見るととつくに山頂を通 その向こうにピークが見える。 ンの後、大きなギャップが現れ、 える。二度ほど緩いアップダウ むと、その先にまたピークが見 見えている。それに向かって進 かったよ。」と下さんが言った。 も、ほかに何も書いたものはな には補点と書いてたよ。」「で 最後尾を来るIさんが「あれは 狭い稜線上の登り道は、やが 稜線の前方には更に高い峰が

> を見ると十一時過ぎである。ま だ早いので確かめるために大き り着くとそのすぐ先にまた大き なギャップが落ち込んでいて、 その向こうの稜線は更に高度を 上げている。地図で確かめると とだている。地図で確かめると とがすいる。地図で確かめると とがている。地図で確かめると とがなく一二二八 の標高点の、一つ西側のピー クであることが分かった。

である。
「ここでお昼にしましょう。」「ここでお昼にしましょう。」



書かれた標注の立っている小ピ数分で、四角の石の柱に補点と食事の後、引き返すこと約十(馬子岳山頂にて)

り過ぎているようである。

中年男女ペアが登ってくるのに中年男女ペアが登ってくるのに出会った。大分市から来たという。「ここは本当に人影のないってしまった。」と愚痴めいたことを言ったり、「こんな山にことを言ったり、「こんな山に居るんだねえ。」と、自分たち居るんだねえ。」と、自分たちのことを棚に上げて、半ば不満のことを棚に上げて、半ば不満

無り返して下っていく。 急な痩せ尾根の下りを過ぎ、 がり落ちるので登り以上に気 がり落ちるので登り以上に気 がり落ちるので登り以上に気 がり落ちるので登り以上に気 を使う。常に下に人がいないよ を使う。常に下に人がいないよ

岸壁の東端を巻いて、スギ林 の中をどんどん下ると登りに見 の中をどんどん下ると登りに見 っきりした道をひたすら引き返 っきりした道をひたすら引き返 その先には登りに見つけておい たナメコの群落がある。まれに たナメコが今日の山歩きの土産と ナメコが今日の山歩きの土産と

(一四年一二月二三日) ゆっくり帰途につく。 分に西内谷橋の登り口に下山し、

参加者 飯田、石川、遠江、

を歩いて明ヶ岳、大田ヶ岳、秋遊

(一月月例山行報告)

八重康夫

別が が車三台に分乗して、六時三〇 が車三台に分乗して、六時三〇 が車三台に分乗して、六時三〇 が車三台に分乗して、六時三〇

進んだ。斫石(きりいし)峠のい筑前岩屋の駅を右に見ながら日田英彦山線に沿って、真新し宝珠山村から県道52号線に入り、宝珠山村から県道52号線に入り、

昨年の忘

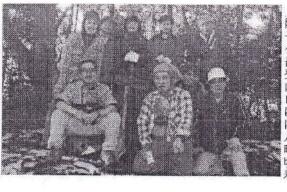
年登山、重廣さんと涌蓋山を歩

月例山行の参加

トンネルを過ぎ、かなりの距離を下ったあと、深倉峡の方に進んだ。途中深倉峡では、男魂岩の協には歩道が色づけられていて、紅葉時には観光客が多いのて、紅葉時には観光客が多いので、紅葉時には観光客が多いの距離

がっていた。 がっていた。 のあちこちに落ちて転 が道路のあちこちに落ちて転 がのでいた。

障子ケ岳登山口には八時頃着



休憩して、少しのアップダウンであり、八時一〇分、登山口をスタートした。いきなりの急登であったが、高低差も一五〇 m 足らったが、高低差も一五〇 m 足らったが、高低差も一五〇 m といったが、高低差を一五〇 m といったが、高低差を一五〇 m といったが、高低差を一五〇 m といったが、高低差を一五〇 m といったが、高低差を一次のであります。

取里の田川の方向から英彦山 た。少し分りにくい三角点だった。少し分りにくい三角点だったが、西さんが見つけ、最初の たが、西さんが見つけ、最初の たが、西さんが見つけ、最初の たが、西さんが見つけ、最初の たが、西さんが見つけ、最初の

登りをしないものも、とって、英彦山と香春岳は、山とって、英彦山と香春岳は、山とって、英彦山と香春岳は、山とって、英彦山とのでははじめていたが、反対の

れがある。

九時三九分、三角点を後にして登山口に降りついたのは一○で、五、八九六歩を示していた。西さんの激で、「さあ次に」で、五、八九六歩を示していた。西さんの激で、「さあ次に」で通った斫石峠に戻り、さっき車がら、来た道を戻り、さっき車がら、来た道を戻り、さっき車がら、来た道を戻り、さっき車で通った斫石峠に戻りった。峠であると鞍部に出た。昔の斫石登すると鞍部に出た。昔の斫石を登すると鞍部に出た。昔の斫石を行ると下した。一○分ほど急

た:大日ヶ岳0.9kmとあった。左:大日ヶ岳0.9kmとあった。右に取り、少し進むと直登コースと捲き道コースとの分岐があり、渡部さん以外全員は捲き道を進んで、一一時四〇分に釈迦を進んで、一一時四〇分に釈迦を曲山頂(三等、八四四・二ヶ岳山頂(三等、八四四・二

て、記念写真を撮り、楽しい食ここで再び二度目の万歳をし

(釈迦ケ岳山頂にて)

(釈迦ケ岳山頂にて) 事の時間とした。一二時〇八分、小雪の舞い出した山頂を後にした。下りは、直登コースをとり、た。下りは、直登コースをとり、た。下りは、直登コースをとり、た。下りは、直登コープあった。 前で、何度かアップダウンを繰道で、何度かアップダウンを繰道で、何度がアップダウンを繰り返した。

目の万歳をした、。三時一八分だった。ここで三度円の万歳をした、大日ヶ岳山頂(四等、度した後、大日ヶ岳山頂(四等、度した後、大日ヶ岳山頂(四等、度した後、大日ヶ岳山頂(四等、

釈迦岳まで二,一五四歩、降りのは、一四時二七分であった。後にした。登山口に降りついた後にした。登山口に降りついた雨が降り出したので、ヤッケ

で、随分歩いた気がした。 ので、随分歩いた気がした。 ので、随分歩いた気がした。 がに済んで良かったし、久しぶずに済んで良かったし、久しぶずに楽しい山行きが出来た。 でで、随分歩いた気がした。

(一五年一月一九日)

西、八重、渡部 佐藤(秀)、佐藤(正)、遠江 参加者 安部、石川、飯田、



テン場代事情

西あずさ

のこと「一万円です」の言葉に場代を小屋に払いに行ったとき泉に入り、テントを張り、テントを銀戸口から赤岳鉱泉に入り、テントを張り、テントを張り、テントを張り、テントを張り、テントで、大きのでは、大きのです。

払えない人・・などそれぞれのござに一泊八五〇〇円の山小屋代がい人、山小屋の人混みにうんざい人、山小屋の人混みにうんざられます。自分たった。シーンが考えられます。自分たった。テント山行者にはいろんなパった。

絶句してしまいま

上げしていました。 となります。トイレを最新式の ものに変えたのが原因だそうで、 ものに変えたのが原因だそうで、 ものに変えたのが原因だそうで、 ものに変えたのが原因だそうで、 ものに変えたのが原因だそうで、 ものに変えたのが原因だそうで、 ものに変えたのが原因だそうで、 ものに変えたのが原因だそうで、

も一人五百円で、おまけに皮製 が剣沢小屋のテン場は何泊して 者にとって、うれしいことです。 人が五百円が相場です。ところ 水を作る手間が省けるので登山 でなく、冬でも流水があるため 良さは、この新しいトイレだけ 赤岳鉱泉や行者小屋のテン場の ら納得するしかないでしょう。 いところですが、このトイレな まいました。うーん、千円は痛 がりの怒りもどこかへ消えてし かく、便座に座るとニッコリし るのでテントの中よりずっと暖 と早速見に行くと、暖房してい たくなるような暖かさで、値上 大体どこのテン場でも一泊 どんなトイレに変わったのか ホルダーまでくれます。

に行くと、五百円でしたが、このオヤジがおもしろい人で「この夏初めての女性の単独登りかけり」と、これはなだけ持っていけ」と、これはさなだけ!」と言うと全部飲んきなだけ!」と言うと全部飲んさなだけ!」と言うと全部飲んがの計らいに感謝して、善良ながの計らいに感謝して、善良ながの計らいに感謝して、善良ながの計らいに感謝して、善良ながの計らいに感謝して、善良ないて、あとはお支払しました。

気をよくして、真砂沢のテン場

場代は素泊まり料金に膨れ上が が、お蒲団に入っても納得の行 は泊まり客も少なく静かでした りました。幸いその日の山小屋 社の「アルペンガイド」には かないイライラが募り眠れませ はお荷物と化してしまい、テン くと、木曾駒以外にテン場は無 たら「この付近は幕営禁止です 檜尾岳から木曾殿越小屋に着い る」と書いていたので、当然テ は中央アルプスです。山と渓谷 いとのことです。まさにテント よ」と言われました。詳しく聞 て、小屋にテン場を聞きに入っ ントを背負って、木曾駒、宝剣、 「小屋の近くにはテントが張れ 一方、一番腹立たしかったの

らず使用料が二千円と言うのでてるときは避難小屋にもかかわ屋のとなりの越百小屋が営業しで更に災難が襲います。避難小で更に災難が襲います。避難小るの上、翌日の越百避難小屋

○○円となり、テントを持った 円で済むはずのテン場代が六五 三日間も運んだ上に、二日で千 度も広げることの無いテントを 洗礼に遭ってしまいました。一 初めて中央アルプスに足を踏み を入口のカンに入れるだけです。 の営業期間を外れると、五百円 あー、思い出すだけでも腹が立 入れたので、勉強不足でこんな 小屋でしょう。ちなみに、小屋 ました。きっと日本一高い避難 通り越し、 す。もう絶句などと言う言葉も 小屋泊まり登山者となりました。 怒りが込み上げてき

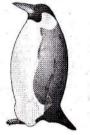
のですが・・・ 驚いていました。テン場を見渡 が多く、小屋の掘り出しがゴー 四年前は「この二十年で一番雪 テント村と化します。通常だと めきあうテント村になるはずな もなら二百ほどのテントがひし 囲が余りにも狭く、五十張り張 すと、指定地を示すロープの範 ここも五百円です。ところが、 クの涸沢は雪の中のカラフルな ありました。ゴールデンウィー れるかどうかの広さです。いつ った」と、涸沢ヒュッテの人が ルデンウィークに間に合わなか テン場代を取られないことも

とと、まだ雪崩の危険性が非常なくて水の確保ができてないこ多く、ホースの掘り出しができわれました。「なぜ?」「雪がわれました。「なぜ?」「雪がラン場代はいりません」と言テントの申し込みをすると

に高いので、テン場を限りなく に高いので、テン場を限りなく でもいいから、雪崩の危険が無 でもいいから、雪崩の危険が無 でもいいから、雪崩の危険が無 でもいいから、雪崩の危険が無 でもいいから、雪崩の危険が無 でもいいから、雪崩の危険が無 でもいいから、雪崩の危険が無 でもいいから、雪崩の危険が無 でもいいなあ・・・水を作 るのも面倒くさいし・・・と思 のでしまいます。この年は、奥 での山頂のお社と石垣にびっし りとエビの尻尾が付き、温度の りとエビの尻尾が付き、温度の 低さを物語っていました。

た。 はで知り合った楽しい仲間でしい ・兵庫とみんなバラバラですが、 ・兵庫とみんなバラバラですが、 ・女は、テン場代一万円払った

んか? 担いでのんびりと歩いてみませ この夏は、あなたもテントを



文責 星子貞夫

メンバー: 星子、池辺、村上場所:阿蘇鷲が峰期日十一月十八日

高岳山頂は気候が少し寒くな

一目であった。 一目であった。 一目であった。 一目であった。 一目であった。 一目であった。 一目であった。 一目であった。 一目であった。 一目であった。

高岳北面の日陰には前日から高岳北面の日陰には前日からとがあるが、その翌年遭難さことがあるが、その翌年遭難さいた。

こそが喜びである。マッター てルートを辿り、山頂に至る事 迷ようことなく、彼の語る言葉 そのかたちに捕らわれて危険に の山では岩の姿をじっと見つめ、 イミングの興味が半減する。こ に嘆かわしい次第である。クラ ど巻いて目印をつけている。真 山者が多くなり、岩にテープな 五十年を経た今日でも当時のル 関門めざして進めば楽にいける。 事のため、寸断されているが、 ルンのことが思いだされた。 に耳を傾けて、その姿に誘われ 人に愛されている。最近特に入 ートがそのまま残り、今でも岳 関門に至るトレールは砂防工 プは藪山だけで結構だ。 日々崩壊を続ける北尾根だが

っていた。
かっていた。
かっていた。
かっていた。
かっていた。
かっていた。
かっていた。
かっていた。
かっていた。
かってきたせいか、登山者の姿もっていた。



私の無名山ガイドブック型

城山シリーズ(五)

飯田勝之

玖珠

中村の城

にあり、 るが、城の尾と言う地名が近く する説と、国清寺とする説とあ ら見ると飯盛状のピークが目立 が城山で、豊後中村の駅方面 高いピークが見えてくる。これ ると、青野山が見えてくるとそ あり、この城山(三ツ群城)と 伝えられる「野上城」には二説 の里」を支配する拠点としたと ぐり取られているのが見える。 の左手に全山杉で造林された小 つが、その山腹が原石採取でえ 中世、野上氏が「飯田郷野上 国道二一〇線を水分峠から下 城山という呼称が残

方が重視されている。 こちらの

号線を水分峠方面から下ってい ぐに久大線のガードをくぐるが、 砂利道が分かれている。道はす ほど手前に、左に鋭角に小さな る。トンネルの二〇〇メートル き、ほとんど下りきったところ 停めると良い。 いるので国道脇の空き地に車を 入り口はゲートに鎖が張られて にある尾本ドンネルの手前であ この山の登り口は国道二一〇

として行きはこれを登ることに も良いが、その道は帰路に使う の茂った林道がある。直進して から数分登ると右に分かれる草 程なく野上川の沈み橋を渡り 分かれるので右の道をとると、 引き返すように左に上がる道と 続いている道で、曲がりくねっ 登っていくと一〇分足らずで林 分けて、歩きやすい所を選んで ヤブに踏み込むことにしよう。 まわずそのまま稜線を直進し、 五分で行き止まりとなるが、か しよう。草つきの作業道は四、 ていく。この道は城山山頂の直 ている。この林道を登っていく て緩やかな傾斜で上の方に続い 道に出会う。これは沈み橋から -まで続く林道である。沈み橋 [腹を巻くように緩やかに登っ スギ林の中のブッシュをかき ガードをくぐると道は二手に

> 隠れし始め、ほどなく左から古 の枝越し九重のやまなみが見え 右に一回ヘアピン状にカーブし 部になっている。 ゲートが設置された一帯は小鞍 大きくカーブするところに鎖の 流した小広場に着く。道は右に い草むした林道が伸びて来て合 て登っていくと、林道からスギ 更に三,四分後に

四分で背の高い萱の茂る荒れた 沿って緩く登っていくと、三、 てみよう。鞍部から造林地境にれる鈍頂がある。まず左に行っ左(東)方向には小城山と呼ば 頂上の一角である。 として使われていたと思われる もないが、ここもかっては山城 着く。もちろん山頂を示す何物 進むとほどなく広い平らな頂に けながら歩きやすい所を選んで クヌギの林となる。萱をかき分 鞍部の右(西)方向が山頂で、

上のヒノキの林に上がる。そし 低い登りやすい所を選んですぐ り、やや下り加減に延びてその た後上り詰めた林道は峠状とな ていき、振り返ると遠くに九重 ている。峠の所は右(北)側が る。やがて大きく右にカーブし 近くに崩平山などが望まれてく のやまなみや一つ離れた涌蓋山、 し急な傾斜の林道は高度を上げ を跨いで林道を登っていく。 鞍部に引き返してゲートの鎖 向こうで行き止まりとなっ 取られた崖となっているが、

> も中世の山城として適した地形 二、三本の山頂標識も立ってい であったことが伺われるが、そ 頂は東西に長く平らで、いかに る。一面ヒノキの植林された山 頂に着く。三等三角点があり、 れらを示す何物もない。

ころには、間伐材を表面に打ち さらに登りに分かれた林道と合 らコウゾの実が目立つ沢沿いを 付けた砂防ダムを見て、初夏な きくヘアピン状にカーブすると あるが歩きやすい。一度左に大 のまま林道を下ると、遠回りで ぎから林道に合流した地点をそ き返すが、登りに尾根のヤブこ 流し、ほどなく沈み橋に帰り着 上線)の巡視路分岐標識を見る 下ると、やがて右に送電線(滝 帰路は登りに使った林道を引

がある。本村集会所の後ろの小日出生本村にも城山とい名の山 何処を見ても見あたらない。 角点は、土に埋もれているのか 地形図にある五六八、七mの三 の面影を感じさせなくはない。 あり、東西に長い稜線は山城跡 頂一帯は、スギ林の中に墓地が て行けば、十数分で辿り着く山 う。集会所から民家の横を通っ も城山という名は知らないと言 高い台地で、土地の人に聞いて なお、玖珠郡にはもう一つ、

稜線のヤブへ→一○分→林道出 一○分→林道右へ分岐→四分→ 国道二一○号線入り口→

> ○号線入り口 →砂防ダム→一五分→国道二一 部→一○分→稜線のヤブ→五分 一五分→城山山頂→一五分→鞍 一○分→小城山→五分→鞍部→ 会い→二○分→山頂手前鞍部

地図 二万五千分の一 豊後中



四

玉 章 良

見山」「小城山」「谷ケ迫山 等)」、津久見市の「鎮南山 等)」、さらに豊後高田市の 佐藤先生と六日に「市房山(一 月四日に「下荻岳(三等)」、 止まり。今年こそはと思い、一 大野町の「鎧ケ岳」 しかし、昨年は忙しくて七〇山 一二年には一一一山、目標達成 (一等) 」、国見町の「伊美山 (三等)」、宮崎県の「鏡山 (三等)」。二月に国東の「妙 「弥簡岳(四等)」「牛岳(四 「両戒山 (三等)」、国東町の 毎年百山登ることを目

原町の「貝殻岳(四等)」、朝山(四等)」「熊ケ岳」、野津山(三等)」、国東町の「小門 じく報告したとおり九山。九月 鹿山(三等)」。七月には第一 辻山 (三等) 」、千歳村の「白 重町の「本城山(三等)」「大 福岡県の「岩石山」、院内町の 岳」「雲ケ」岳」「御座ケ岳」、 県の「可愛岳(二等)」「鏡山 シ山(四等)」。五月には宮崎山(四等)」、野津町の「トギ 等)」。四月には福岡県の「油 城山(三等)」蔵持山(四 県の「御所ケ岳(三等)」「戸 地町の「城山(三等)」 岳 (二等) 」、緒方町 岳(三等)」、朝地町の「亀ケ 等)」「秀峰」。三月には大野 町の「烏帽子岳 (三等)」「永 子岳」「雨乞岳」「日平山」 には大野町の「鎧ケ岳」「烏帽 山を中心に一六山。八月には同 九号で報告したとおり、佐賀の 山(三等)」、津久見の「横岩 山(二等)」、緒方町の「倉木 福岡県の耳納山系の「高良山 「石山 (二等)」。六月には三 「秀峰」「光昌寺山(三等)」 (一等)」、大野町の「障子 「小富士山 (二等)」、耶馬渓 「鷹取山 (一等)」、緒方町の (三等)」「発心山(二等)」 (一等) 」「兜山」「耳納山 の「御座ケ岳 (一等)」障子 (四等)」、緒方町の「 雨乞岳」 」、福岡

湾ではかって「玉山」に登りに ング」にも登れたし、暮れの台 遺産の山「マウント・ウォーニ たし、オーストラリアでは世界 ン」「モンテ・ローザ」が見れ ヨッフォ」「マッター・ホル じ一一一山であった。夏には に登った。本年度は一昨年と同 に行き「世界遺産の山Mt. Waning から二一日までオーストラリア 正山(三等)」、そして一〇日 山(三等)」、耶馬渓町の「六 岳(三等)」、山国町の「宇治 佐賀県の「天山 (一等)」「彦 先生と九州登山部顧問研修会で、 耶馬渓町の「経読岳 (三等)」 等)」、津久見市の「鎮南山」、 には宇目町の「切込山(三 村の「御嶽(三等)」。十一月 町の「秋庭山(四等)」、清川 伯市の「栂牟礼山 (三等)」 等)」、犬飼町の「天明山(二 行ったときに台北で見た山々を 山(三等)」「高尾山」、三重 等)」、大分市の「霊山」「高 等)」、本匠村の「大山(三 等)」「軍人さんの山(四 岳」「荻岳 (二等)」。一〇月 には弥生町の「佐間ケ岳(三 (一一五七 m) (往復四時間) 「アイガー」「ユングフラウ・ 「小屋ケ岳」。十二月には佐藤 (三等) 」「三宅山(三等)」 「法師山」、大分市の「九六位 「牧ノ城 (三等)」「木原山 「城山 (四等)」、竹田市の 山 (二等) 」「本宮山 (三 「水ノ元(四等)」、佐 誉会員、PM六時四十五分。四 十五分間は挨拶と名誉会員、 いるが、番号が気になる。

た。来年も一〇〇山を目指して 再び見れて大満足の一年であっ 頑張るぞ!

年会員、来賓紹介、新入会員挨



子

時の間に着席。テーブルマスタ 見つけて合図。阿部さんと行く。 四十分、入り口に集まった中を、 ーの指示に従う。名札はつけて ーが先に入る。重廣会員の姿を 五十四に山名。テーブルマスタ するすると一番前に。テーブル けない話しに聞き入る。 海外登山報告と我が支部では聞 念山岳賞の宮森常雄様『ヒンズ ークシュの地図の作成』の講演、 『北辰の間』の入場、PM五時 午後二時より第五回秩父宮記

(一四年一二月七日 晩餐会と 八日)

込み。 拶は寺田会員(一三六三一)。 は故今西会長の奥様が毎年持ち の好み。八・コーヒー。飲み物 の香り山にみたてて、これは私 リームのスフレ風グランマニエ 六、おろしそば、七、アイスク モンターニュ、五、握り寿司、 ソース巣ごもり作り、四、牛フ タリームスープタピオカ入りパ 盛り合わせ、二・チキンの軽い 食べていないのでパクパク。メ 塚会長ほかステージへ。朝食を イレ肉ステーキ(小)香草風味 イ包み焼き、三.大海老のチリ ニュー、一、古稀殿特製前菜の 鏡開きは、会のハッピ姿で大

ではなくとも、皆何か話してい 中を知人の所へ。まあ、蜂の巣 は全体で、東九州は七名手を振 る。 って会釈して着席。この時誰が る。(ナプキン)三六〇度まわ いるか見当をつけ、五二八人の 食べては自己紹介。支部紹介

というので、あわてて席へ行き 日かでネパールへお帰りになる ったことが思いで深い。あと何 タ・マチマ駐日大使と写真に入 ネパール王国のケダル・パク

が楽しみである。 周年に、サマゴンパへ同行して より、毎年晩餐会で会えること 元会長の奥様で、マナスル四十 今西芳子会員は、故今西寿雄

PM六時に開宴。乾杯村木名

同じグループと思い声をかけら 穂高のむかえでアパートへ。 は、中、高年ハイカーが、私に より西吾野八時半着。この駅で 十二月八日、起床五時、池袋

れる。 る。 山頂で豚汁をいただくのが楽し 真を送ってもらうためだ。 木の瘤が珍しくカメラにおさめ みで、山道も神社で銀杏の御神 私、毎度おなじみのメンバーと の平野、柳田、東九州の阿部と へ。これも顔見知りで、北海道 に住所、氏名を書いて渡す。 埼玉、奥武蔵の「高山不動山 集会委員の方に五百円と封筒

と言い下っていく。 屋に着く頃から雪、関八州見晴 横に車道がある。山頂のあずま で教えてくれる。登山道のすぐ 人達が「豚汁がおいしかった」 台も雪の中。西吾野駅で会った 案内係(集会委員)は自慢顔

ある。私までが豚汁の御礼を聞 べりもせず食べている。父母が た。この人達も駅で顔見知りで だものを美味しそうに、豚汁の きなおにぎり一つ、海苔で包ん 一緒でなく、男の人が集めてい 一人でビニールを敷き、おしゃ ば幼稚園の時からのダループで、 サービスで御機嫌である。聞け 小学校四年生グループが、大

ね」と、美酒を傾けている連中 る阿部和代さんと「来年また 集合写真をとり、大分まで帰

名札を返し、

山岳をいただき、

と別れる。 雪はやんでいた。

いつか関八州を車で上がり見た の記録をし、大分着PM八時。 行くところなし。手帳に小使い チケットの変更なし、午後の便 ッキリ。カウンターで手続き、 うなるか?「欠航」の赤地でド ポートへ。一万円のチケットど き。ヒマラヤ観光に行き、エア 雪で、乗り物すべてよちよち動 になる。エアポート「羽田」も 次の朝は新宿というか東京は積 新宿より穂高のアパートへ。

写



五日)

孝

料理店、めずらしく畳である。 バスで天神へ。『平和楼』中国 福岡へ。おねえ様宅へ車を置き、 五時開会、支部長、 『大分百山』十八冊売れる。十 大分発十時、 加藤会員の車で 深田会員の

ついて、 は高岳、御協力をお願いしま 本は「来年全国支部懇談会、山 挨拶で、各支部長は支部運営に 特に人数について、熊

奥地、特にヤルッアンポの探検 ガルポ山群トレッキング』中国 ばし聞き入る。 福岡支部長のスライド説明にし に永年情熱を傾けている松本前 願いしました。 講演は『東チベット・カンリ

雪山の連なる未踏峰を見せられ 鞍のない馬に乗り苦労したこと、 に過ぎる。 国料理で、三時間はまたたく間 ぐらい費用はかかります」と中 部で行きましょう」「七十万円 り出発だそうです。 ると触手が動く。本年も十月よ 五千メートル以上の峠越え、 「九州五支

無理にお願いしました。 副支部長には、九重集会の日に 東九州支部参加者六名、佐藤

州十二名、熊本一名、宮崎〇名。 山が近くに見えた、めずらしい PM六時三〇分、大分着八時一 睛天。帰りは高速バスで福岡発 行きは加藤夫妻の自家用車、 参加者は福岡三十五名、北九

月

日

三月二三日(日)

東九州支部参加者 西、古川、 八重 甲斐、 加藤



支部四十五周年で、その年をお東九州支部は、本部百年の年が

知 5 せ

宮崎百山を目指しま

食糧三食分と非常食

一月月例山行の

·目的地 • 月 日 黒岳 (1578m) 二月二三日 (日) (宮崎県高千穂町)

行 出 程 午前四時三〇分サニ 谷と一周を目指しま 障子岳、祖母山、北 から黒岳、親父山、 天候が良ければ北谷 出発

装 安心でしょう。 軽アイゼンがあると

三月月例山行の

·目的地 行出 二ツ岳 (1275.3m) 時間が有れば隣の乙午前五時サニー出発 (宮崎県高千穂町) 山にも挑戦します

四月月例山行の

(日) 開催予定) の開催場所等

·目的地 月日 行 装 出 程 地蔵岳 (1089m) 四月一三日(日 テント、シュラフ、 時間が有れば近くの

時サニー出発

一二日 (土) 午後七 宮崎県西都市)

× 局までお知らせ下さい。 間前までに参加の有無を事務 いずれの場合も出発の一週

役員会のお知らせ

・月日 三月十三日(木)

·時刻 ·場所 午後六時より コンパルホール

定期総会についてほか

御連 分まで入金のこと。 本部会費未納の方は今年度

毎月本部より会報「山」を

さい。二十六歳以下の加入は 欲しい方は事務局へ。(会友 入会金免除となります。 の方へ) 五部送ってきていますので、 定期総会(四月一九日 若い会員の入会を誘って下

ば事務局へお知らせ下さい。 について、希望・意見が有れ

ご案内

0 中高年登山となりました。 り、さながら中高校生ならぬ 年の参加者が少なく、会員、 と重なった関係などで、青少 の記念行事の一環として計画 「二〇〇二年 国際山

られました。 楽しむ山歩きが出来るのは何 おかげで九州でも結構、雪を と、寒い日が続いています。 やらはずれて、暮れから正月 暖冬という長期予報はどう

日本山岳会東九州支部報 2 0 1月25日 (平成15年) 徳

良いので、今後は実施時期を 会友とその友人等が多数とな も中高校生の期末考査の時期 すべきだという意見が多く見 厳選して、毎年継続して実施 した青少年体験登山は、折し しかし、開催の意義は大変

0 かなりの雪で、ぶらりと出四日、前日の雨は県北西部 新雪に真新しい人の足跡が続 低山も積雪一五~二〇センチ。 けた耶馬渓の山々は何処も雪 が近くなると人の声。ヤブを 山に登る変わり者がほかに 化粧でした。大牟田山という よりです。 るんだ感心しつつ登る。山 いていて、こんなマイナーな お屠蘇気分の抜けきらな

チュア無線マニヤが交信中で かき分けて山頂に出るとアマ

どうやら鹿のよう。それもお 警戒音が聞こえてきました。 はしゃぎ回った跡かもしれな らぬ新雪の原で、小鹿たちが もまだ真新しい。まだ明け切 びただしい数に足跡で、しか 原に残された無数の足跡は、 ン、キューン」と母鹿の鳴く い。しばらく登ると「キュー スギ林の 中の、 真っ白.

題字

発行者 編集者 発行所 木田 秀勝

梅 飯 田 勝 〒870-0021 大分市府内町1-3-16 サニースポーツ内 西 孝子方 でロ・FAX 097-532-0926